（一ページより続く）

ているのであります。

科学と経済の発展に対応し、生活環境に近代的な変革をもたらす、すべての社会開発は、道路整備を第一義として、はじめてなし得ると確信するからであります。

幸いにして西蒲原郡が昭和四十六年度において、大規模営農団地指定に内定したことから、大幹線農道および支線農道の新設あるいは整備にあわせて、基幹村道の改良整備も一段と進んで、地域住民の利便と福祉向上に、大きく貢献する日も近いと察するものであります。

内外のご協力を

昭和四十三年度から設置した、岩室村総合開発企画審議会で、あらゆる分野にわたる開発構想が検討されておりますが、近き将来を現実の基盤の上に立って展望するとき、岩室村の発展は、まさに前途洋々たるものであると、確信する次第であります。

これを推進する源動力は全村民の持つエネルギーであります。

年頭に当り、村民各位の絶大なご協力をお願いし、「融和と前進」の実をあげるため、横にがっちりと手をつないで、たゆみなく前進することをここに誓うものであります。

終りに、村外でご活躍さる皆々様の、ご健康とご多幸をお祈りして、新年のごあいさつといたします。

年頭所感

村議会議長　本間十郎

新年おめでとうございます。

年頭所感の一端を申しのべさせていただきます。

去年は岩室村にとって、決していい年だったとは申されないようです。特に農家にとっては、米価据置の上に生産制限だの、空念仏だけの豊作景気、穫ってみたら平年作以下等々……。

もちろんこれは、農家が悪いのではなく、みな貧窮する国家の農業政策の然らしむるところではあるが、といってみたところで始まりません。

最近の新聞によれば、政府は、総合農政に四兆円という、私どもには夢のような大金を投じて、立策するといわれます。握って見ればわからぬというものの、農村は自民党の票田、まさか掛声だけで終らせる筈はないと思います。

農業県の新潟、特に米産第一位の新潟県、そのまた主産地の一つとして自他共に許す岩室村。その農家のみなさんが、ここ緊褌一番石にかじりついても頑張って、この総合農業政策に取り組んで行ってもらわねばならない時が、今だと私は思います。

「米がいらなくなったのでは断じてない。米は日本人に一日もなくてはならぬもの、ただここ当分の間、余るというだけのこと、それを現実にどうするか。総合農政は、今、それを考え施策するのだ」

乗りおくれてはなりません。折角ご精進願います。

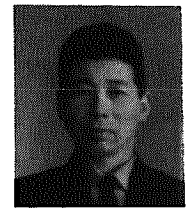
総合農政には頭がいる、気がゆるせない。私達はこの際、当局を鼓舞鞭撻して、きめこまかい施策と指導につとめてもらうよう頑張ります。

何といっても岩室村の生産は農産が第一です。お互さまがっちり手を取り合って、国の総合農業政策に対処し、取り組んで行こうと考えております。

所信の一端を申述べて、新年のごあいさつといたします。

『体を鍛えよう』

公民館長　大岩修作



村民の皆さん、あけましておめでとうございます。

今年の村の実行目標として、「体を鍛えよう」と示されたことは、そのものズバリと努力の方向を表現されており、新鮮さにあふれたスローガンであると、心から歓迎するものであります。

と同時に、体力づくり運動の窓口を担当するものとして、その責任の重大さを痛感しております。

「体を鍛えよう」運動の柱となる、各種の体育レクリエーション活動は、地域に住む人びとの、心と身体を健康にするだけでなく、人と人との心の結びつけをたすけると共に、無用なわだかまりを拭い去り、一は込み思案を追放して、明朗な奮発心を呼び起こさせる不思議な魅力をそなえているものですから、地域社会を発展させていくために、欠かすことのできない大切なことであります。

今年は特に、実行目標を実践するために、各方面のご協力を願って、体育レクリエーション関係の、いろいろな催しものや運動をくりひろげることになっていますが、まずその手はじめとして、軽易な「村民体操」を制定して、これを普及することによって、全村民から自分の体を通して、体力づくりに理解を深め、親しんでいただきたいと思っております。

十二月二十四日には、リーダー養成をかねて、実技研修会が開催されました。

役場では、毎日業間体操として取り入れ、庁内放送のリズムに合わせて、全職員がこの体操を行なうことになりました。この時間に役場に居合わせたすべての方々にも、ご一諸に体操をたのしんでいただくよう、ご協力をお願いしたいと存じます。

そしてこの体操が、全村の職場や家庭の隅々まで普及して、名実ともに「村民体操」となって、「体を鍛える運動」の成果が実を結ぶよう期待しています。

スポーツ精神の根底を流れるものは、たくましいファイトであり、フィアプレーの精神であります。そしてそれは、最近その欠けていることをなげかれているような人間性回復への近道にもつながるのであります。

今年こそ、村民ぐるみのスポーツ体制づくりを通して、「融和と前進」の実を収め、すべての村民の健康と幸福が築き上げられるよう念願いたします。

村誌編纂調査員リレー寄稿

雑感

県立西川竹園高校　松永克男

一節がうかんでくる。

〝角を出さぬと曾根の代官所へ申し上げるがいかだいろ〟

岩室と曾根村代官所を行政的に結びつけようとしてもつながらない。江戸中期以降上州高崎領であった岩室の農民が封建制下の憤懣を「申し上げる」としても他領の長岡藩曾根村代官所へ訴えることは常識的にはまずあり得ない。三条在の高崎領一の木戸陣屋が順当であろう。また万一非常手段として他領代官所へ訴えることがあったとしてもわざわざ曾根まで行かなくとも隣りの天領石瀬代官所や長岡藩巻村代官所の方がむしろ安全でありてっとり早い。どうも岩室甚句が今のような歌詞になったのは明治以後のことであるらしい

戊辰戦争後の明治二年に西蒲原郡の内、弥彦、巻、曾根、赤塚を中心とした地方は水原県の支配下に入り長岡藩曾根村代官所跡に出張所がおかれた。ここにおいて曾根は行政上西蒲原郡の中心的な存在となった。

ここで想像をたくましくすれば、その頃曾根出張所の役人たちがつれづれの慰にさなかに近郷盆踊り歌を習い聞き、替歌して「曾根の代官所へ」とドンチャンさわぎをしたことはなかったか。まあこれはどうでもよいとして、とにかく岩室甚句のおかげで曾根の代官所は実質以上に有名になりすぎた。そのためか、ある地方では曾根の代官所＝天領石瀬代官所出張所説が飛び出す始末である。なんともやりきれない。

成人おめでとう

一五三名がよろこびの成人式

新成人のみなさん
ご家族のみなさん

限りない可能性へのスタートとして、新しい希望に満ち、二十年の成長の過程をふり返り、深い感慨のうちに、輝かしい新春をお迎えのことと存じます。

おめでとうございます。

岩室村の成人式は、次の要領で行ないます。

力強い若人を仲間に加え、岩室村のすばらしい発展を期待しましょう。

一、期日　一月十五日
二、場所　静関荘
三、該当者　昭和二十五年四月二日～昭和二十六年四月一日までの出生者で岩室村に住所を有する者。

該当者は次の通りです。それぞれ案内状を差上げました。お揃いで出席されるようお待ちしております。

尚、名簿に洩れている方がありましたら公民館へお知らせ下さい。

又、村外へ出られている方で当日、岩室村の成人式に出席を希望される方も公民館へ御相談下さい。

金池　1　本間　哲郎
石瀬　7　五十嵐　優　小川　正子　鈴木　栄子　向井みちよ　山田　憲子　和田みき子　渡辺　律子
岩室　9　岡崎　行雄　後藤　通　高島帰依子　皆川久美子　小林三津子
樋曾　7　田辺　隆次　石田　順子　田中　朝子　三富　道子
栄　4　草野　伸一　山下　正夫
橋本　5　金子　正照　小林　節子　佐藤千恵子
久保田　3　小池　等　鈴木　勝　鷲沢　栄子　樋口　米子　堀越　恵子
北野　5　幸雄　樋口　悦子
南谷内　4　佐藤　豊秋　鈴木　悦孝　佐藤　成人　中田　行栄
夏井　9　山岸　幸枝　稲垣　年栄　遠藤　正行　川崎　正夫　山上　正衛　大治ナツヨ　川崎リイ子　川崎恵理子　山岸ヨキ子
西中　4　大平　等　大平　広紀　本間　秀基　本間　由子
潟上　2　藤田　照夫　藤田　恵子
西長島　3　新川　春枝　小川フミ子　山県　京子
横曽根　6　菅井　正一　菅井　純子　菅井　節子　槇田　則子
西船越　3　槇田　正治　大森トシ子
新谷　3　小川　良子　富沢登志美　鷲沢　直子
油島　1　近藤　重幸
高畑　5　岡島　道夫　荒井　栄子　中村　恵子
和納一区　5　伊藤　正美　本田記代志　山崎　幸子
和納二区　6　会田健四郎　鍔田　敏夫　会田　良子
和納三区　9　伊藤　勇　高沢　正秋　池上　雄子　亀山　洋平　新村　登　斎藤　静江
斎藤　寛子　清水　知子　田中　豊美
和納四区　4　池上　義一　福田　司　本田　栄二　小林　節子
和納五区　4　大岩　葉子　中原　恵子　服部　満代
和納六区　10　沖野　光男　尾形　一春　樋浦　正行　山上　正志　山田　博　山田　乾二　伊藤フミ子　佐藤　京子　槇田フミ子　山田　文枝
和納七区　10　竹内　秀松　大越　幸一　竹内　勉　古沢　久平　田中　清一　相沢ヨシイ　竹内　文恵
和納八区　4　大越　正子　神村　博　小林美千代　山岸　正子
和納九区　1　堀越サヨ子　山上恵美子
原　2　宮島　晴子　宮島あや子
富岡　1　川上　麗子
高橋　5　阿部　恵子　高島　久子　田中　朝子　樋浦　良子　樋浦　秀子
間瀬一区　2　阿部斗喜栄　柏木　信枝
間瀬二区　2　小林　清一　宝輪　徳子
間瀬三区　3　横山　繁　田中喜代子
間瀬五区　2　本間　文子
間瀬六区　3　若杉　優裕　五十嵐稚里　宮川スミ子

農業近代化は工夫と協力で
緑と太陽の里の自然を守れ

総合開発企画審議会が中間答申

①営農改革の指針案
②道路整備の推進案
③広域的大衆観光の確立案

昨年の五月、村長から右のような諮問を受けて、審議を続けていた岩室村総合開発企画審議会は、八か月間で延べ二十五回におよぶ調査審議の結果、去る十二月二十三日、①営農改革の指針案②広域的大衆観光の確立案についての、中間報告書を提出しました。

その報告書によれば、あくまで中間の段階なので、くわしいことには触れられないとしながらも、次の考えを明らかにしています。

①農業関係では
・将来の米づくりは、直播栽培と大型機械による、一貫作業体系になろう。
・農業従事者は現在の三分の一ぐらいになる。
・安心して働ける工業開発が同時に必要である。
・これを実現するためには研究指導体制の一本化と強化を急げ。

②観光関係では
・自然美を生かすことが、観光開発の基本である。
・独創的な観光拠点を造れ
・弥彦山周辺町村との連携を密にする。
・必要なところには、村外資本の導入をすすめる。

などとなっていますが、これからも審議を続けて、実現への問題点や方法、効果などを明らかにして、最終答申がなされることになっていますが、注目して期待しましょう。

新春座談会

『一九七一年の岩室村に何を望むか』

新しい年のはじめに、村内のあらゆる機関や団体の代表が集まって、ゆく年をふりかえり、来る年を展望して、それぞれの抱負を語り合い、村勢発展の根まわしをしよう。

あわせて各機関団体がしっかりと手をつないで、それぞれの発展をはかるたすけにしよう。

これが新春座談会開催の目的です。

座談会は、一月五日午前十時から、静関荘（老人いこいの家）で開かれ、各界の代表が自由活発に話し合うことになっています。

主催する村当局は、きっとすばらしい意見が述べられるだろうと、大いに期待しています。

昭和四十五年 村の 十大ニュース

あなたの十大ニュースは？

①**満十歳を迎えた岩室村**
合併十年を経て、力強く前進するわが郷土。

②**米生産調整93haの減反**
農政の大激動期、農家へきびしい試練。

③**総合開発審議会の答申**
郷土開発構想の雄大なビジョンを描く。

④**岩室観光開発KK始動**
村民ぐるみの参加、第一弾はドライブイン。

⑤**弥彦山スカイライン開通**
岩室村観光の新時代への幕明けとなる。

⑥**老人いこいの家完成**
静関荘と名付けて、老人福祉は一歩前進。

⑦**岩室温泉診療開始**
身体機能障害者の社会復帰に一大福音。

⑧**ライスセンター建設**
農業近代化への尖兵、初年度は約七千俵処理。

⑨**村民運動会和北三連勝**
「融和と前進」スポーツの定着化へ努力続く。

⑩**亜のラッシュ事故激増**
安全運動も焼石に水？今年こそ……。